

日本労働年鑑 第58集 1988年版
The Labour Year Book of Japan 1988

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

6 日本共産党

1 一年間の動き

統一地方選、全分野で議席増

八七年四月に実施された第一一回統一地方選挙において、共産党は各級議会議員選挙に、「補選をふくめて三〇八〇人が立候補」し、「そのうち当選者は二一七二人、前回比一五三議席の純増」であり、「現有議席は三八二四人となり、党史上の新しい峰をきずき」、「明確な前進」（「拡大全国都道府県・地区委員長会議での宮本議長の冒頭発言」『赤旗』五月一四日付）をとげた。とくに「全分野で前進したのは日本のすべての政党でわが党だけ」（同前）であるとして、その成果を高く評価した。

共産党は、道府県議選で五八八人（含む推薦八）を立てて一二人（同三）当選の三三議席増、政令市議選では一三八人を立てて八〇人当選の六議席増であった。後半戦の一般市議選では一一九人を立てて九七二人当選の四六議席増、区議選では一八三人が立候補して一六七人当選の八議席増、町村議選でも一〇三八人（同五）が立候補して八三人（同三）当選の五五議席増という結果であった。このうち、当選した婦人議員は四〇〇人（うち新人一四七）で、社会党の三倍、他政党全部あわせた数の一・五倍とその比率は高い。

なお、首長選挙では、共産党は一三知事選のすべてに自民党への対立候補をたて、福岡では社会党と共闘して現職を守ったが、東京では独自候補を擁立し、社共共闘は二四年ぶりにくずれた。

国際部長宅電話盗聴事件

八六年一月二七日、東京都町田市玉川学園に住む緒方靖夫幹部会委員・国際部長の自宅電話が盗聴されていた疑いがきわめて濃いことが、同党調査団とNTT町田電報電話局の調べで判明し、電気通信事業法違反（通信の秘密侵害）などで東京地検に告訴、告発した。東京地検特捜部は八七年五月以降、神奈川県警警備部公安一課の警部補など現職警官四人にたいする取り調べを進めるなど、「権力犯罪」の疑いが強まった。

六月一〇日、緒方国際部長は新たに神奈川県警公安一課員らを氏名を特定しないまま公務員職権乱用罪で追加告訴した。しかし、六月一三日、中山好雄神奈川県警本部長の辞任、吉原神奈川県警警備部長の転出、三島健二郎警察庁警備局長の辞職など「一種の処分」はなされたものの、八月四日、警察官二人が起訴猶予処分とされるにとどまった。これを不服とした緒方国際部長は、九月八日、東京第一検察審査会に審査を申し立て、八月一〇日にも盗聴工作に関与したとされる四警官にたいして、公務員職権乱用罪について付審判請求の手続きをとった。

不破委員長の入退院と委員長交代

四月一五日、不破委員長は定期健康診断のため代々木病院の人間ドックに入ったが、一過性の「虚血性心疾患」と診断され、精密検査のためそのまま入院することになり、委員長代行として村上弘副委員長が任命された(四月一八日発表)。四月三〇日、病状について「心筋硬塞と強く疑っている」旨医師団から発表され、入院は長びいた。

六月一七日に再発の恐れがないとして退院、七月二四日に冠動脈の拡張治療を受けるために一週間余再入院して八月一日に退院するなど検査と治療をつづけたが、その後回復し、一二月の第一八回大会前から党務に復帰した。

その後、一二月二九日の第一八回大会一中総で委員長交代が行われ、村上委員長代行が委員長に、不破委員長は新設の中央委員会副議長に、それぞれ就任した。

宮本・チャウシェスク共同宣言

四月二九日、宮本議長は党本部で記者会見し、ルーマニア共産党のチャウシェスク書記長との共同宣言を発表した。

この共同宣言は、反核国際統一戦線の結成をよびかけ、共産党間の関係の基準の擁護と新しい展望などを打ち出したもので、五つの世界の基本問題——(1)平和と核兵器禁止の問題、(2)平和民主勢力の共同の問題、(3)民族の独立と安全の問題、(4)飢餓、貧困、低開発など世界の経済発展の不均衡を正す新国際経済秩序の問題、(5)世界の共産主義運動の問題、をとりあげた。とくに世界の共産主義運動の現状については、「あらゆる形態での他党の内部問題への干渉を完全に終わらせることの重要性」を指摘しつつ、「共産党間の正しい相互関係にもとづく新しい国際連帯は可能である」との見通しを示した(「共同宣言」の全文は、『赤旗』四月三〇日付を参照)。

世界の三〇組織を集めた「反核国際シンポジウム」

八七年六月一五～一七日、創立六五周年を記念して国際シンポジウム「核戦争阻止、核兵器完全廃絶のたたかいと平和民主勢力の共同のために——'85国際シンポジウム以後の情勢をふまえて」が、東京・新宿区の日本青年館国際会議場で開かれた。これには、日本をふくめ世界五大陸から三〇の共産党・労働者党、民族解放組織、平和団体の代表三九人が参加し、基調報告や結語がなく、どのような共同文書の採択もないという前回同様の形式で、活発な討論がなされた。

なお、共産党主催の国際シンポジウムは七二年以来五回目にあたるが、核戦争阻止、核兵器廃絶を主なテーマとするものでは二回目のものであり、規模としてはこれまで最大のものとなった(発言など詳細については『前衛』八七年八月特集増大号を参照)。

【国際シンポジウムに参加した共産党・労働者党・諸組織(発言順)】

(1)イギリス共産党、(2)インド共産党(マルクス主義)、(3)オーストラリア共産党、(4)キューバ共産党、(5)スイス労働党、(6)スペイン共産党、(7)ソ連共産党、(8)チェコスロバキア共産党、(9)デンマーク社会主義人民党、(10)ドイツ社会主義統一党、(11)ドイツ共産党、(12)サンディニスタ民族解放戦線、(13)日本共産党、(14)ニュージーランド平和評議会、(15)ノルウェー社会主義左翼党、(16)ハンガリー社会主義労働者党、(17)フランス共産党、(18)ブルガリア共産党、(19)ベトナム共産党、(20)ベルギー共産党、(21)アフリカ民族会議(ANC)、(22)メキシコ社会主義統一党、(23)ユーゴスラビア共産主義者同盟、(24)ルーマニア共産党、(25)レバノン共産党、(26)アイルランド労働者党、(27)イタリア共産党、(28)オランダ共産党、(29)プエルトリコ社会主義党、(30)アルジェリア民族解放戦線党

沢重徳・前宮崎県委員長を除名

一〇月二四日、統制委員会は、宮崎県警警備当局から報酬を受け取ってスパイ行為を働いていたこと

を認めた沢重徳前宮崎県委員長を除名処分とすることを決定した。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
